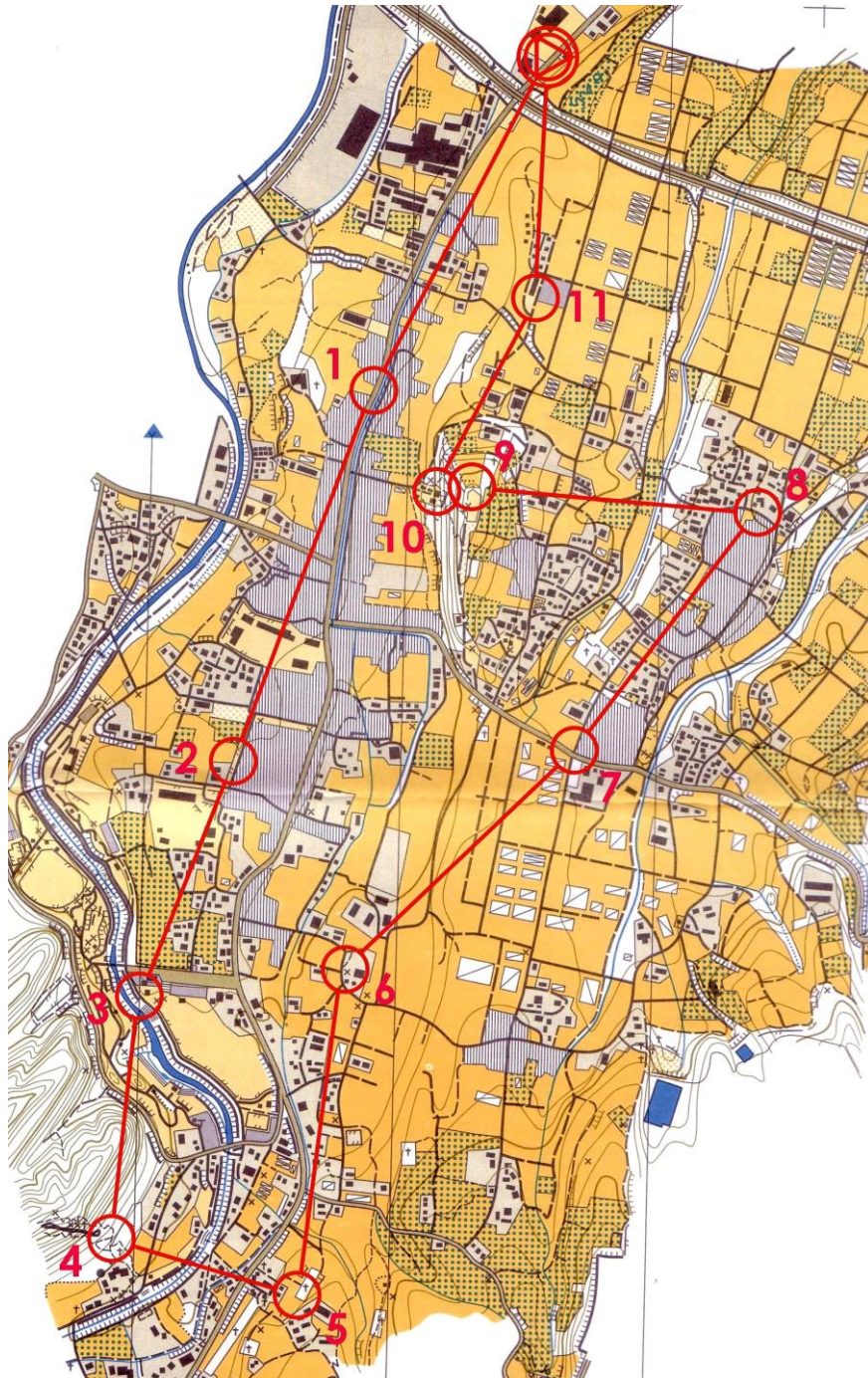


「甘楽の里・見晴し」コース 群馬県甘楽町



の後、グリーンランドコースの一部がゴルフ場の造成で使用できなくなり、2001年に地図改訂とともに3コースがほぼ重複している現在のコースに変更されています。

1989年から1991年にかけて3コースを歩き、22年ぶりの再訪です。重複スポットがあっても決して一筆書きをしないで設定通りに回ることをこれまでルールにしてきたことから、今回もマジメに3コースをたどることとします。

この日は以前の見晴しコースのスタート地点であった上信電鉄上州福島駅からタクシーで甘楽ふるさと館へ赴き、最も短い城下町コースを1時間半ほど回ってから、見晴しコースのスタート地点である甘楽町役場へ向かいます。地図は5月末をもって販売終了とされていたところを、ふるさと館の館長さんに事前をお願いして延長していただき、僅かに残っていた最後の在庫を無事入手。マスターマップもここで3コース分転記をしていたことから、役場到着後すぐに見晴しコースを歩き始めます。



歴史ある城下町小幡

見晴らしコースへ

スタート地点にはかつて城下町コースとグリーンランドコースの2つの案内板が設置されていましたが、現在は見晴しコースのみの案内板に置き換わっています。

12時20分、役場をスタート。以前歩いたときは建設中だった上信越自動車道(藤岡IC~佐久IC 1995年開通)をくぐり、城下町の古い町並みが残る一面に入っていきます。観光誘致を狙ってすっかりきれいになった歩道を桜並木に沿って歩きます。横を流れる水路は400年の歴史を持つ雄川堰で、環境省が選定した日本名水百選にも選ばれています。

前回紹介した富岡コースと同時に廃止が決定した甘楽の里の3コースの中から見晴しコースをピックアップしてレポートします。

「甘楽の里・見晴し」コース 8km 11ポスト
群馬県 No.140 JOA 公認 No.675

22年ぶり

コース誕生は昭和59年6月30日。パーマナントコースでは比較的新しい部類に入りますが、それでも歴史は29年に及んでいます。開設当初は現在のコースとは全く異なり、3コースそれぞれ独立していました。「城下町コース」「見晴しコース」「グリーンランドコース」の名前に準じた環境が楽しめ、今よりも広範囲を巡る設定でした。そ

整備された400年前とは、鎌倉時代から戦国時代にかけて豪族小幡氏の根拠地として栄えた小幡地区に織田信長の次男信雄（のぶかつ）が上州小幡2万石及び大和国宇陀郡3万石が与えられた時代にあたり、以来この地区は8代152年にわたり織田家の支配が続きました。歴史ついでに余談ですが、「甘く楽しい」と書く「甘楽」の由縁は古代に渡来人が多く住んだことから「から」の名が与えられ、「甘良」から転じて「甘楽」とされたと言われています。



400年前に造られた雄川堰（第1ポスト）

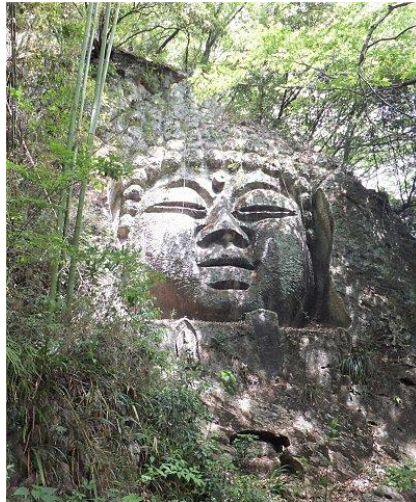
そんな歴史のある町並みを歩いていくと、堰と歩道の上に第1ポストが姿を現します。開設当初のポストではなく、コース変更時に更新されたと思われるものに置き換わっていました。

第2ポストへも歴史ムード満点の一帯を進みます。途中にあるレンガ造りの建物は歴史民俗資料館です。かつて製糸工場を運営していた甘楽社小幡組の建物で、戦時中まで使用されていたものだそうです。養蚕の盛んだった面影がこのあたりには随所に残っています。さらに南に進むと顔を出す中小路は幅13~4mもある道路で、これは織田家が造った当時のまま。車のない時代にこれほど広い道路を整備するのは大変珍しいと解説されています。城下町らしく、書院造の武家屋敷が続くなかにもポストは置かれています。近くには織田信雄が造園した大名庭園である国指定名勝楽山園が昨年復元され、新たな観光スポットとして注目されています。

食い違い郭の前を過ぎ、町立第二中学校の横を通る路地を歩いて第3ポストへ向かうと、土曜日ということもあり半日で下校する学生がちらほら。感心したのはすれ違う際に等しく挨拶を交わしてくれたこと。とても清々しい気持ちにさせてくれました。甘楽総合公園に出ると、道端にあるポストは難なく発見できるでしょう。

第4ポストもこのコースを語る上で欠かせない存在。雄川に沿って南に向かい長巖寺という天台宗の小さな寺院

を目指します。観光寺院ではないようで、人気はなくひっそりとしています。その脇から続く小道を登っていくと、岩肌に彫られた巨大な磨崖仏が突如出現します。パーマメントコースめぐりでも大分の白杵石仏や栃木の太谷観音で日本有数の磨崖仏と出会ったことがあります。ここにあるのは顔面だけのもの。「日本一」と称しているのはこの顔の大きさ（縦10m、横8m）のことを言っているのでしょうか。日本一の割にはメジャー感がないのは、完成が昭和60年という新しいものだからでしょう。一般の方が6年かけて彫り上げたものだそうです。ポストは磨崖仏のあごのあたりを見つめるように立っています。



長巖寺の磨崖仏

出戻りでお寺を後にし、第5ポストへは2つのルートが待っています。一見すると道路を回りこんで雄川の対岸へ進むルートしかないように思えます。しかし、よく地図を見てみると、第4ポストの真東に川をまたぐ破線の記載が確認できます。石段を下ると川を渡れるように飛び石が続いていました。崇福寺旧境内にある織田宗家七代の墓の片隅にポストは設置されています。最も大きな墓石が2代信雄のもので、

民家の点在するのどかな一帯に続く舗装道路を歩いて抜けると、真っ赤な屋根が印象的な本殿の赤城神社が見えてきます。無人の神社で、参拝客もなくひっそりとした雰囲気。第6ポストは境内の西端にやや斜めに立っていました。

耕作地の横一面に広がるシロツメクサの白い花を見ながら北を目指します。主要道路との交差点という分かりやすい地点にある第7ポストの横には「中村遺跡」と記された石碑が立っています。説明文を読んでみると、この一帯から縄文式や弥生式の土器が発掘され

たとか。更に遡った歴史ともつながりのある甘楽の里です。

第8ポストを初代の見晴しコースの第3ポストと全く同じ場所で確認後、終盤の山場に向かいます。次の第9ポストは以前の第4ポストで、この区間は全く同じルートです。小高い丘である八幡山のポストは、かつては見晴しコースだけに組まれていましたが、今は3コース全てに入れられ、馬鹿正直に3回上り下りを繰り返しました。城下町コースは南側のかんら薬師から緩やかに登りますが、他の2コースは北側の結婚の森に整備された遊歩道の丸太階段を上ることになります。上りきると、正に見晴らしの良い眺望が広がり、ポストも気持ちよさそうに立っています。

西側を下るとそこは小幡八幡神社の境内。朱塗りの本殿の横にあるポストは距離では丘の上のポストと隣接しており、1:20,000だった旧マップでは同一ポストと勘違いしてしまいそうな位置関係です。



第10ポストと小幡八幡神社

最終ポストは全11ポスト中唯一、見晴しコースのみで使用されているポストです。北に進み、甘楽ふるさと農園の建物の近くで生垣脇に立つポストは見つかります。

このあと富岡コースと一緒に回る土井洋平氏から、役場に到着したという連絡が入り、上信越道の側道で落ち合います。見晴しコースを2時間6分で終了し、歩いて上州福島駅へ戻りました。この後の模様は前回のレポートに続きます。

東京でも江戸縁の街めぐりがブームになっているようです。ここ甘楽の里小幡地区も歴史の風を存分に味わうことができる名所が満載です。

昭和から平成にかけての29年間、そんな小幡の魅力をめぐってきたオリエンテーリングの歴史が残されていることを、PCファンとして心に刻みました。

(2013年6月1日 踏破)

(大高竜亮)